



「ASEANにおける強靱なグローバル・バリューチェーン
(GVC)とパートナー国との関係」
報告についてのコメント

2021年1月25日

亜細亜大学特別研究員

石川幸一

➤ 1. 報告書の意義

- ① ASEAN各国のGVC参加を上流（サプライヤー市場）と下流（バイヤー市場）について対外依存度（foreign reliance）と集中度（rate of concentration）を付加価値貿易統計により計算し10か国の24産業（合計222産業）の外的ショックに対するリスク（脆弱性）を検証
- ② 自国のGVCのリスクを産業別に上流、下流で検証でき、リスクの高い産業を特定できる
- ③ コロナ危機によるGVCの脆弱性→強靱なGVC構築が課題→政策提言

➤ 2. 論点

- ① GVCはASEANを含む東アジアの経済発展の原動力：比較優位に基づき形成された（工程間）国際分業のネットワークでありアジア各国の相互補完関係を示す→重要性は不変
- ② 対外依存（foreign reliance）の高さよりも集中（concentration）のリスクが問題：コロナ危機では対中依存度の高い医療用品や武漢に集積していた自動車部品などでサプライチェーンが混乱：中国依存リスク(put all eggs in China basket)
- ③ サプライヤー市場：ASEANのGVC参加率は高いが、特定の産業と特定の国（シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム）で参加率は高く、その他の国（インドネシア、フィリピン、CLM）は低い→コロナ収束後GVC参加度を高める必要
- ④ 感染症、災害などに加え、地経学（geo-economics）リスク

➤ 3. GVC強靱化の対策

- ①品目と特性（農林水産品、製造業品、代替品目の有無）や各国の特性（生産要素の賦存、比較優位、経済規模と発展レベルなど）、サプライチェーンの類型（垂直統合型、従属型、相互依存型、モジュール型、市場型）などを考慮した対応策
- ②サプライチェーンの多元化：生産と調達の多元化、輸出先多角化によるリスク分散
- ③国民の生命、健康、安全に深くかかわる品目（essential products）：安全保障の観点（備蓄や国内生産）：食料安全保障、エネルギー安全保障、医療安全保障
- ④アジアにおける経済連携と協力の重要性：貿易自由化（非関税障壁）、貿易円滑化（手続き簡素化・デジタル化など）：RCEP（原産地規則における累積規定）
- ⑤国内付加価値（DVA）をどのように高めるのか：WTOルールなどの制約

➤ 4. 撤退・第3国移転（Divestment）について

- ①報告書の指摘の通り日本企業の撤退は少なくない
- ②大多数の日本企業は事業継続あるいは拡大の方針：アジアでの事業を拡大・現状維持という企業は8割を超え、第3国移転・撤退は1%程度：理由は市場の発展性（ジェトロ：2020年海外進出日系企業実態調査）
- 参考：①投資先としてのASEANの検証～投資環境とリスク（国際貿易投資研究所、2016年）、②2020年海外進出日系企業実態調査－アジア・オセアニア（ジェトロ、2020年）